

オーケストラ演奏で町民を魅了
管弦楽団が最高の音色を披露



第13回つべつ日本フィルセミナーと第22回日フィル子ども芸術の広場が、8月31日、中央公民館で開かれました。日本フィルメンバートと道内外から集まった日本フィルセミナー受講者50人余りによる演奏で、会場を訪れた大勢の観衆を魅了しました。

第一部では、クリニックを受けた津別中学校吹奏楽部員25人がJ・Pスーザ作曲「雷神」などを演奏。続いて、日本フィルメンバートとセミナー受講者がチャイコフスキー作曲「エフゲニー・オネーギン」を演奏し、練習の成果を披露。第二部では日フィルオーケストラによるチャイコフスキー作曲「交響曲第4番」全楽章が演奏され、会場からは惜しみない拍手が送られていました。



AEDを使った実践練習を行う受講者

普通救命救急講習会を開催
救命法などを真剣に学ぶ

9月12日、津別消防署で普通救命救急講習会が開かれ、中学生の父母7人が参加しました。講師の大東邦博救急係長から、ケガ人や急病人が発生した時に救急隊が到着するまでの間、救命処置や応急手当をすること、大切な命を救うことに大きく役立つことが説明されました。

実技講習では、ダミー人形を使ってケガ人の意識や呼吸の確認、心肺蘇生の方法を教わり、また、AED（自動体外式除細動器）の使い方を繰り返し学びました。3時間にもわたる今回の講習受講者には修了証が交付されることとなり、消防署では、ケガや急病の際の応急処置の方法を学べる講習会を随時開催していて、自治会や職場、サークルなどでの開催も呼びかけています。

初めての試み「日曜議会」
多くの町民が議会を傍聴



津別町議会定例会が9月21日と22日の両日開催され、初日の日曜日には多くの傍聴者が議場を訪れました。

議会はこれまで、平日に開催されていますが、仕事などでなかなか傍聴することができない町民から、休日などでの開催要望が出ていたもので、多くの方に傍聴していただき町政への関心をより高めてもらおうと、町と議会との協議を経て、今回初めての取り組みとして実施されました。

午前10時の議会開会前から傍聴席には町民の方が訪れ、5人の議員から出された一般質問のやり取りや議案の審議に耳を傾けていました。

townics

まちのわだい

縁日や屋台で楽しく過ごす
本岐地区で秋祭り



本岐神社と本岐農業研修センターで秋祭り（本岐連合自治会主催）が行われ、本岐地区周辺7自治会の皆さんが秋祭りを楽しみました。

予定していた子どもみこしは、雨で中止となりましたが、子ども相撲が学校の体育館で行われ、大きな歓声があがっていました。夕方からは研修センターで縁日が開かれ、会場入口では好評の焼き鳥や豚汁、つぐねが今年も用意され、集まった子どもたちにはスマートフォンやボールや射的、輪投げなどをするなど、笑い声が会場内に響いていました。また、景品がもらえるカラオケやビンゴゲームも行われ、お年寄りから子どもまで時間を忘れて楽しんでいました。

9月16日「認知症サポーター養成講座」が行われ、役場職員や福祉関係者、町民の方など約30人が参加しました。

講座では地域包括支援センターの丸尾美佐保健師が講師となり、認知症の基礎知識や認知症の方と接するときの心構えなどを学びました。

津別町には200人ほどの認知症の方が地域や施設で暮らしていて、保健師からは「周囲の人が認知症を正しく理解することで認知症の方やその家族が安心して暮らすうえで、とても心強いことになる」との話があり、参加者は身近な事として真剣に聞き入っていました。



認知症について理解を深める
職員研修公開講座を開催

自然文化教室でカヌーに挑戦
チミケップ湖で自然を満喫



9月6日、チミケップ湖で自然文化教室が開催され、小学4年生から6年生の13人がカヌー体験をしました。子どもたちの中には、初めてカヌーを体験する子どももいて、とても緊張した様子で指導員からカヌーの乗り方やパドルのこぎ方の指導を受けました。

初めはぎこちない手つきで漕いでいた子どもたちも、徐々にコツをつかみ、自由に漕ぎまわることができるようになっていました。

この日のチミケップ湖は、すっきりとした晴天に恵まれ、風もなく湖面は穏やかで、子どもたちは雄大な自然の中で楽しいひと時を過ごしていました。

「すいむ」でプールまつり
水の中でゲームと記録に挑戦



温水プール「すいむ」で水泳記録会とプールまつりが行われ、幼児から中学生まで約70人が集まりました。記録会では、小学1年から中学生までが自分の力に応じて15メートルと25メートルの自由形で、それぞれの記録更新をめざし懸命に泳いでいました。

後半に行なわれたプールまつりでは、水の上に浮かべた大きなビート板の上に何人乗れるかを競うゲームなどが行われ、バランスを崩して水に落ちる子どももいて、周りで観戦していた父母からも大きな歓声があがっていました。

9月14日、豊永のさくら公園において自衛隊美幌駐屯地の炊事車の実演と食事の提供が行われました。9人の隊員が、一度に200食分のご飯とおかず、味噌汁などを作ることができ、炊事車でご飯を炊き上げ、大きな釜でカレーと豚汁を作りました。駐屯地には炊事車が5台配備され、新潟中越地震にも派遣されています。

この日は、隣のパークゴルフ場で自衛隊友の会会員などによる大会が開かれ、プレーを終えた会員や自炊車の実演を見に訪れた家族連れなど約200人が集まり、列になって次々に出来立てを受け取り、おいしそうに味わっていました。

